

# 地域活性化という「遊び」

22

京都市  
福知山市 「みわ・ダッシュユ村」から

山本晋也

見 に来る人はいなくとも  
毎年とても美しく紅葉する

限界集落の秋も終わりに  
本格的に薪が必要なの  
季節になりました。



キャリア10年の  
次男。  
このくらいの  
量なら  
10分くらいで  
割ってしまいます。

薪割りの気持ちいい音を聞きながら  
「便利さ」について考えたこと

長男が5歳から始めた薪割りも  
気がつけば12年。  
次男は10年、三男は少し早く4歳か  
ら始めたので8年。  
我が家は冬の暖房だけではなく

給湯とお風呂のボイラ  
ーにも薪を使いますの  
で一年中新作りをせね  
ばなりません。  
あまりの忙しさに  
一時は薪割り機の導入  
も真剣に検討したこと  
もありましたが  
子供たちが成長するに  
つれ、その必要性が  
徐々に薄れ  
今では3人合わせると  
薪割り機の能力を

はるかに上回るほどになりました。  
連日パカーンパカーンと  
気持ちのいい音が山にこだましてい  
ます。

そ んなある日の夕食時  
ひよんなことから

金の斧と銀の斧という昔話が話題に  
上がりました。  
「金の斧でもらっても困るよな」  
「金の斧では薪割れんしな」  
「銀の斧も無理やな」  
「金の斧は無くても死なへんけど薪  
がなかったら死ぬよな」  
「その時代やったら鋼の方が価値あ  
るよな」  
「神様あんまりわかってないよね」  
「もし鋼の斧返してもらえなかった  
ら大変やな」

「正直というより金の斧では割れな  
いからそれは違いますと言うたんや  
と思う」

小さなころ絵本を読んでも黙っ  
て聞いていた話も

年齢とともにそれぞれ新しい価値観  
を持ち始め

いろんなことに対して

それぞれの意見が出てくるのは当た  
り前ですが面白いものです。

こんな子供たちの会話を  
聞いていると

自分たち大人が持っている価値観が  
本当に正しいのかどうかわからなく  
なってきました。

今はネット等で

いろいろな情報が簡単に手に入り  
物の価値を判断する際とても便利な  
ように思えますが

キャッチコピーや値段、ブランド名  
などがポンポン飛び込んで来るので  
自分でじっくり考える前に



■ 4歳から竹で薪割りの練習をしていた三男。



■ 焚きつけの小割りを作るのは2歳くらいから。



膝の手術を終え集落へ帰ってこられたおばあちゃん。



淡々と繰り返す日常こそが僕らにとって宝ものです。

適当に答えを出してしまい後悔するということもしばしばです。スマートフォンの普及で情報の検索がさらに簡単になり現場を観察しながら自分なりに考えるということをする前にとりあえずネットで検索という方法が当たり前になりつつあります。これをクイズやテストに置き換えて考えてみると問題を自分で考える前に解答のページを見てしまうようなものかもしれません。考えなくても即座に答えが出るというのは素晴らしいですが自分が天才にでもなったような錯覚すら覚えますが、果たしてこれいいのでしょうか？

**限** 界集落には80代になった今でも元気に畑

で野菜を作っているおじいちゃんおばあちゃんがいっぱいいますがそれがどうしてなのか。ちよつと考えてみましょう。答えは簡単、若い時に今の何十倍も体を使ったからです。情報も今よりずっと少なかったので頭もたくさん使ったことでしょう。頭も体も基礎体力があるわけです。さてそのことを念頭に置いてまたちよつと想像してみましょう。機械ができて体を使わなくても良くなった。コンピューターができて頭を使わなくても良くなった。数十年後の人間は一体どうなっているのでしょうか？

機械、コンピューターの良い部分も沢山ありますので

それらを全て否定するわけではありませんが物事にはやはり副作用や一長一短とすることがありますので便利になりすぎるということに対してはそれなりに注意が必要だと思っております。

**最** 近、集落の足の悪いおばあちゃん

の足がさらに悪くなり

街へ出て子たちと暮らすか膝の手術をして引き続き一人で暮らすかという選択を迫られましたがおばあちゃんは自分の足で歩きこの集落で暮らすということを選択をされ1カ月の入院を経て限界集落へ帰ってこられました。年齢的にも手術は体にとって大きな負担になるというのにそれをしてまでわざわざ不便な田舎へ舞い戻って暮らすというのは今の価値観からするとずれているかもしれませんがもしもおばあちゃんにはおばあちゃんなりのおしつかりした価値観があるのでしよう。今後AIなどの普及でさらに急速に便利な世の中になっていくのは確実ですがどんな時代になっても僕も子供たちやおばあちゃんのように自分なりの価値観を持ってしっかりと生きていたいと思います。